

■別途資料：アンケート・クロス集計

① 年齢別×住宅関連施策に関する満足度・重要度

- 「子育て支援策」に関しては、10代～40代の子育て世代で満足度が低くなっており、今後安心して子育てを行える環境整備が必要となっている。
- 60代以上の高齢者にとっては、「高齢者・障がい者への支援」「空き家等の活用」「自然と調和したまちづくり」「鉄道やバスなどの地域交通の充実」といった項目で満足度が低くなっており、身近な生活環境に関する対応が必要となっている。

② 居住年×困っている点

- 居住年の少ない方が家が狭く、一方居住年の多い方が家が広すぎる点が課題としており、ニーズに応じた住み替えの促進など持続的に住み続けられる居住環境の提供が必要となっている。
- バリアフリー化やリフォームなど、居住年が多いほど課題とする声も多くなり、家屋の老朽化に対する改修が必要となっている。

③ 年齢別×現在の住まいに住み続けたいか

- 定住志向は年齢が上がるとともに高まり、70代以上では約8割が現在の居住地に住み続けたいと回答している。一方10・20代では移りたい意見と住み続けたい意見はほぼ半数となっている。若年層の定住に向けた取組が必要となっている。

④ U・Iターン者の意向

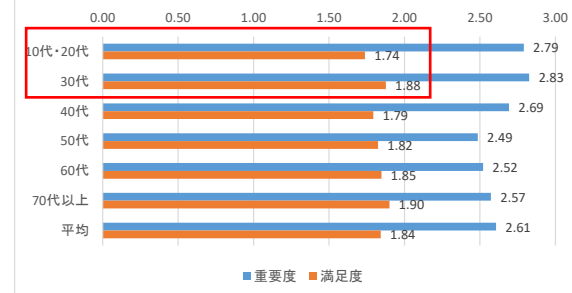
- U・Iターン者よりも生まれた時からの居住者の方が定住意向が強く、U・Iターン者の定住策を推進する必要がある。
- そのためには、特に良好な地域コミュニティの構築、地域交通の充実、また防災面での対応に考慮する必要がある。

⑤ 自由回答者の属性

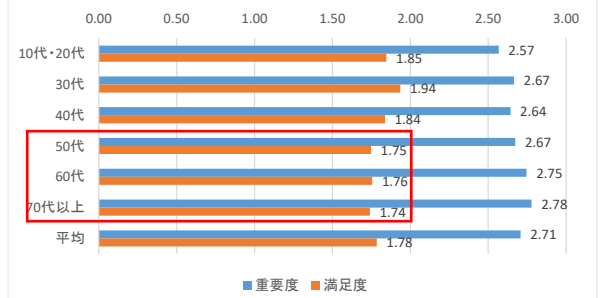
- 住宅補助に関する意見では、他地域に比べて住宅開発が活発に行われている氷上地域からの意見が多くなっている。
- 空家・定住促進に関しては、目立った地域差はなく、居住年20年未満の意見が多くなっている。
- 子育て支援に関する意見では、山南、市島地域からの意見が多くなっている。
- 自治会・コミュニティに関する意見では、氷上、市島地域からの意見が多くなっている。

① 年齢別×住宅関連施策に関する満足度・重要度

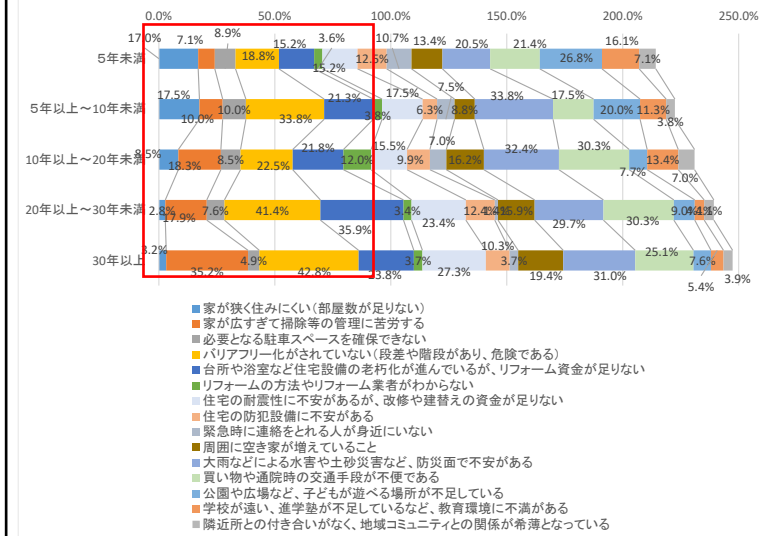
①子育て世代への支援



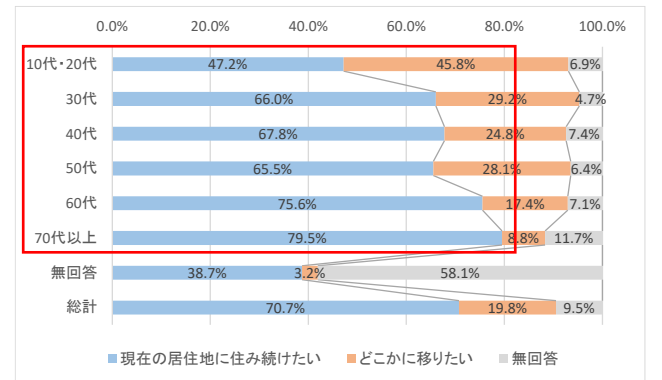
②高齢者・障がい者への支援



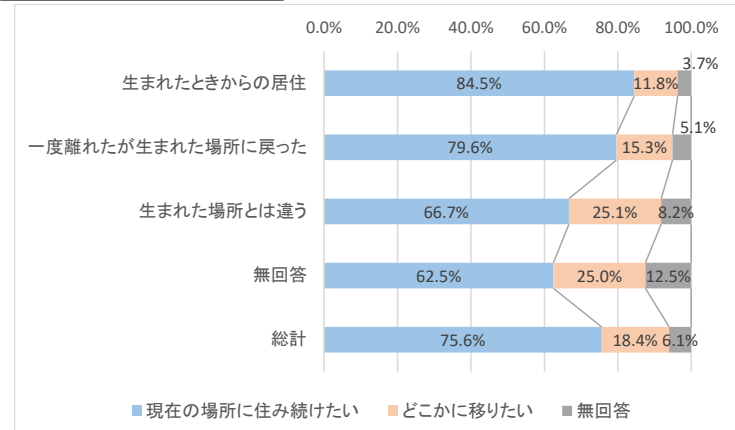
② 居住年×困っている点



③ 年齢別×現在の住まいに住み続けたいか



④ U・Iターン者の意向



⑤ 自由回答者の属性

